

球史 これからも

今夏の第97回全国高校野球選手権大会(朝日新聞社、日本高校野球連盟主催)の第2回運営委員会が23日、大阪市内で開かれ、高校野球100年の記念事業を発表した。第1回全国中等学校優勝野球大会(1915年)に出場した10校の現役部員が、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で8月6日に行われる開会式で復刻ユニホームを着て入場行進する。▶1面参照

第1回出場校復刻ユニで行進

復刻されるのは、秋田中(現秋田)・早稲田実業(東京)・三重四中(現宇治山田)・京都二中(現鳥羽)・神戸二中(現兵庫)・和歌山中(現桐蔭)・広島中(現国泰寺)・鳥取中(現鳥取西)・高松中(現高松)・香川(現久留米商)・福岡(現福岡)の第1回のユニホーム。
当時の大会記念誌に載って



マーク 球児の可能性表現

いる写真を参考にし、OBらの証言などから再現した。

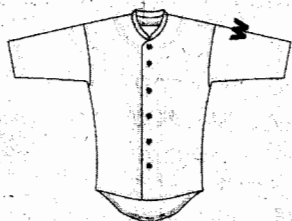
秋田中は地元久保田城の別名「矢留城」にちなんで「YADOME」、広島中は広島城の別名「鯉城」から「RIJO」を胸のマークにしている。また、現在の早稲田実業のユニホームはえんじ色が特徴だが、当時は縦じまで、胸には「ビジネス(実業)」を示す「B」があしらわれていた。

100年の節目に誕生したシンボルマークは、全国選手権で使用する公式球にも印刷される。
デザインを手がけたグラフィックデザイナーの佐藤卓さんは「ロッチェ キシリトルガム」などの商品デザインを手がけた。顔にあたる部分が形を成していないことについては、「模索しながらこれからいかにようにも発展して、それぞれの形を成していく可能性を残していることを意味しています」と説明している。

開会式では10校の現役部員各1人が、復刻ユニホームを着て「高校野球100年」の横断幕を持って行進する。第1回大会は開会式が行われなかったため、この10校が同時

また、選手権大会創設の功績が認められて野球殿堂入りが決まった朝日新聞社の創業者、村山龍平(故人)の表彰式が、開会式終了後に行われる。

◆各校のユニホームはデザイン画



和歌山中



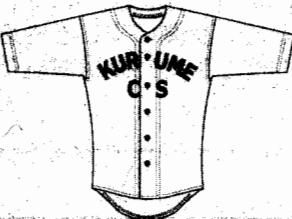
広島中



鳥取中



高松中



久留米商



秋田中



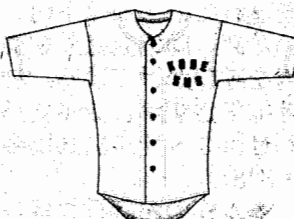
早稲田実



三重四中



京都二中



神戸二中

高校野球100年